

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570100913
法人名	有限会社 ライフビレッジ
事業所名	グループホーム やすらぎの郷
訪問調査日	平成 21 年 10月 27 日
評価確定日	平成 21 年 11月 12 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査セン

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570100913
法人名	有限会社 ライフビレッジ
事業所名	グループホーム やすらぎの郷
所在地	滋賀県大津市下阪本4丁目6番37号 (電話)077-579-1010
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2F
訪問調査日	平成 21 年 10 月 27 日

【情報提供票より】(21年10月12日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12 人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(6ヶ月) / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	650 円
	夕食	900 円	おやつ	(食費に含む) 円
	または1日当たり 2,000 円			

(4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小泉医院、三上歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR湖西線の叡山坂本駅から徒歩で南に10分程度のところ、川沿いの静かな住宅地の中にあり、併設のデイサービスと同じ建物中にグループホーム やすらぎの郷がある。設立者の一人である施設長は、身内の看取りを終え介護福祉の世界に身を置くようになった。自分の体験に基づいた理念「暮らしてみたい家づくり」を職員とともに実践し今日に至っている。滋賀県認知症専門指導師として県内外で活躍した実績を積んでいる。当ホームでの勤務の長い常勤職員が多く、OJTでの指導も行き届いている。介護支援のレベルも高く、利用者の家族からの信頼も篤く、この地域の代表的なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で要改善を指摘された項目はないが、要望事項は数点出ている。その中で「職員を育てる取り組み」に関し、職員のスキルアップについて年間の研修計画の立案とそれに沿った育成を実践中である。「重度化や終末期に向けた方針の共有」の関連で、同意書の保管については要望どおり医療側とホーム側との双方で保管するように改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>10月に各ユニットの責任者が中心となり、自己評価を行い、施設長が評価を集約した。総合評価としては、理念に基づく運営から、サービスの成果に関する項目で、それぞれ概ねできているとの自己評価で、問題点の抽出はなかった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの運営状況や、毎月の行事計画、外部評価の結果等について説明し、出席委員にも、ホームの問題点等を共有してもらえるようにしている。また災害対策で地域ぐるみでの防災特に避難に取り組んでおり、運営推進会議の地域委員を通じて、地域の力を借りての避難協力を要請し、協力を得られるようになったことが、成果の一つである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の家族に対して、日ごろの暮らしぶりや、健康状態、金銭管理などについて、最低月1回以上の、報告・連絡・相談をして、家族の不安の解消に配慮している。また年4回家族を招いての行事の際は、暮らしぶりを家族の目で見ってもらう機会を供している。寄せられた意見や要望は職員会議に諮り、運営に反映させるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の幼稚園や小学校の運動会や祭などの行事へは積極的に参加するようにしており、逆にホームが開催する夏祭りや、餅つきなどの行事には、家族をはじめ地域の方々の協力を得ることが、必須の要件となりつつあり、地域の理解も得られている。認知症に関する出前講座など、要望に対応して地域との相互交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営の理念は、「その人らしさの追及」「利用者満足・家族安心」「地域密着で暮らしてみたい家づくり」の3つを掲げている。地域との関係については、開設当初より謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、職員の目に触れやすいホールに掲示している。また管理者と職員とでの個別支援についての打ち合わせ時にも、その人らしさの追及や利用者満足等を実現すべく話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、幼稚園や小学校の運動会、祭等に参加している。またグループホームの夏祭りや餅つきなどの行事へ、自治会役員をはじめ地域の有志の方が毎年手伝いに参加してくれているなど、地域との付き合いは定着している。認知症等に関する出前講座には、地域の要望に対応して、相互の交流に努めている。		自治会への加入については、昨年来の継続課題となっている、地域との繋がり的重要な一つであり、決着をつけるべく折衝して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心となって自己評価を行い、施設長が集約した。その結果を全員で討議し、1年間の介護支援内容を振り返るように努めている。外部評価での指摘事項については職員会議等でよく話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生児童委員、自治会福祉委員、連合自治会長、包括支援センター担当者、家族代表、ホームからは各ユニット責任者、デイサービス責任者で構成し、2ヶ月に1回開催している。議題は活動状況の報告が中心であり、特に地域との関わりについての事案も多い。ここで出された提案や課題は、サービス向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課には毎月出向き、事務手続き等を含め情報交換を密にするよう努めている。管理者が県の認知症専門指導師の立場にあることから、行政担当者からの働きかけも少なくなく、これらの接触を介護支援サービスの質の向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族とは、電話や面会時にホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理など、報告・連絡・相談を密に行っている。また毎月開催するホームの行事のうち、年間4回は利用者家族を招き、食事等を共にして、利用者家族に暮らしぶりを見てもらう機会を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族に対して、最低月1回以上の、報告・連絡・相談をして、家族の不安の解消に配慮している。また年4回家族を招いての行事の際は、日常の暮らしぶりを見てもらい意見、要望を把握し、職員会議に諮り、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員が多く、また定着率は高い。異動の際は1ヶ月間新旧の職員を一緒に介護しながら担当を引き継ぎ、利用者へのダメージを少なくするように努めている。運営者自ら率先して仕事を担当し、職員の諸待遇アップに寄与している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場研修として、日々その場での事例検討を実施している。内外の研修の機会を提供し、受講者はその内容を職員全体に報告している。本年度は6名の研修を援助している。段階に応じて育成するため、体系的な計画を策定し取り組みを開始した。そのうち1名は、介護福祉士の資格取得の研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は県の認知症専門指導師の立場にあることから、開設当初より同業者職員を研修生として受け入れてきている。「淡海グループホーム協議会」に参加し、管理者、職員等各層のレベルで同業者との交流を行っている。職員レベルでは「ガチンコ介護道」(湖西地区の有志が自主的に開催している討論会)に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当たっては、家族とも事前に十分相談するが、併営のデイサービスの利用者が、次の利用者となる順番となっている。したがって入居前から、当グループホームの職員や利用者および場の雰囲気、さらにはサービスにも既に馴染んでいることが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を生活のパートナーとして一緒に暮らすように努めている。野菜や花づくりなどの経験による知識や生活の知恵などに、学ぶことの場合作りと位置付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを聴くことから始まるが、うまく伝えられない人に対しては、家族に訊ねたり、本人の色々なサインから気付くようにして、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はセンター方式を採用している。利用者本人や家族と職員の話し合いから、問題点等の課題を抽出し、課題に対応した介護支援の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日変化のある都度記録しその場に相応しいケアは何かを毎朝のミーティングで検討し、即刻ケアに反映させる独自方法(ポイント介護)で見直している。状態により家族にも連絡し、同意を都度とっている。介護計画書としては3～6ヵ月毎に見直しているが、上記の内容は、毎日見直しているに等しい内容となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を採用している。利用者の買物や美容院、理髪店の利用など同伴で支援している。家族の宿泊や食事提供などにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の了解を得て協力医がかかりつけ医になっている。2週間に1回のペースで定期健診を行っており、救急の場合は協力医の指示を受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の支援に関してはマニュアルを作成して、支援について利用者家族に説明し同意書を交わし、利用者家族とホームと医療側とで保管している。状態の変化に応じてその対応を話し合って同意書を更新している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人個人の誇りや尊厳を尊重するため、言葉かけなどの声の大きさに気をつけるようにしている。個人情報等を含む文書や書類は事務所の保管庫で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々人のペースを尊重するようにしている。起床や就寝時間等異なるが、一人ひとりの暮らし方を探り、そのペースに近い生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者の好みをできるだけ取り入れて作成している。食事の準備は職員が行っているが配膳や後片付けなどの手伝いは、できる人が随時手伝っている。咀嚼や嚥下の困難な利用者は少ないが、おかゆやおにぎりにするなど、その人の状態に合わせて供している。職員も一緒に和やかな雰囲気のある食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好みの時間帯での入浴を楽しめるように支援している。浴室はグループホームの浴室以外に、デイサービスの浴室(車椅子対応)の利用も可能である。入浴回数は1週間に2～3回が基準となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での野菜や花作り、犬の餌やりなどを担当したり、テレビを見たりして思い思いに楽しんで時間を過ごしている。「グッドネスケアプラン」(利用者の得意なことや好みのことなどの長所を生かしたケアプラン)を作成して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	構内の散歩や、地域の散歩やドライブなどでの外出支援をしている。買物や小観光など近距離ドライブは度々行っている。デイサービスの併設による機能の共用が効果的である。送迎車でのドライブを度々実施して喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の施錠をしないで、拘束の少ない住環境を提供している。職員の見守り気配りで対応しており、近所の人たちも見守りに協力してくれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルは作成している。消防署の指導の下で避難訓練を実施している。地域ぐるみでの防災訓練は、運営推進会議で検討計画し、地域の委員に避難誘導をお願いすることになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	在宅を基本に、利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて、馴染める楽しい食事提供に努めている。食事量は必ず記録し、摂水量についても、課題のある人については記録して健康管理に留意している。医療連携のドクターからのカロリー制限等のアドバイスなど配慮した内容で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、食堂兼居間は板敷きであるが、さらに8畳間2部屋の和室があり、好みに応じて居場所を決められるようになっている。花を生けたり観葉植物などを配し、外出機会の少ない利用者への配慮が窺える。さらに共用のディサービスのフロアには季節ごとの花等を飾りつけ、季節感の演出に工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や家族の写真等の持込を勧めており、落ち着いて暮らせる雰囲気を出せるように支援している。2人部屋の利用もできるようになっている。		